

プログラム 7 木と本をめぐる旅—木簡^{もっかん}づくりワークショップ—

Ⅱ【資料編】 事例 12(p71～72)

■ 概要

誰にとっても身近な存在である「本」を切り口としたユニークな体験型の森林教育プログラム。人類は 5000 年前から草木を加工して“紙”をつくり、そこに文字や絵を記して情報を残してきました。現在でも、本に使われている紙は、主に木材を原料としたパルプからつくられています。木と本は切っても切れない関係にあるのです。

本プログラムの前半は、木と本のつながりをレクチャー形式で学びます。材料の移り変わりや語源を探ることで、草木をどのように加工して本をつくってきたのかを、実物やスライドを用いて紹介します。後半は、木でできた古代の本・木簡づくりワークショップです。現在の本のルーツのひとつである木簡を、中身のテキストも含め、ヒノキ材を用い一人一冊を製作します。

■ 学習のねらい

- ① 木と本の関係性について学ぶ。
- ② 木簡づくりを通じて、木材の特徴や利用方法の多様さを学ぶ。
- ③ オリジナル本づくりを通じて、本や読書に一層親しみ、情報収集・記録・表現方法を学ぶ。

■ 所要時間 : 60 分～120 分

■ 準備するもの

・ 材料

7-① ヒノキの短冊(幅 1-1.5cm, 長さ 20-25cm, 厚 0.2-0.3cm):5-10 本/人数

*砥^との粉による滲^{にじ}み止めを施す。ヒノキ以外の木も使用可能。

7-② 綴じ紐(たこ糸, 麻紐などやや太めの紐):2 本(60-80cm)/人数

・ 道具

7-① 下書き用紙(木札に書く前に使用する):人数分

7-② 筆記用具(筆と墨, 筆ペン, 絵の具など):人数分

7-③ はさみ:机に 1 つ

・ あるとよいもの

プログラム前半のレクチャーで使用する本や植物の見本

[例]木簡^{もっかん}, 竹簡^{ちっかん}, 卷子本^{かんすほん}, 和綴^{わと}じ本, 和紙, パピルス, パルプなど

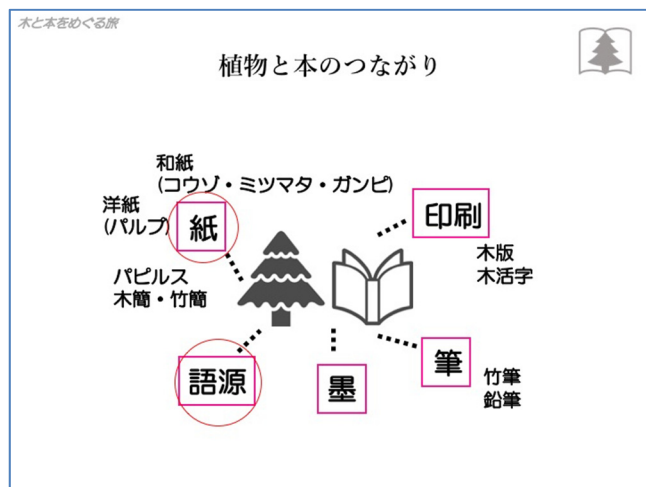
■ ポイント

- ・ 木簡に何を書くか(テキストや絵)が、本としての完成度を高めます。ワークショップ内で何かテーマを設定することや、ほかの活動のまとめとして掛け合わせることで、ふりかえり・記録・表現などの学習効果が得られます。例えば、2「森のポスト」を行った後に、樹木の種類や特徴、気づいたこと、連想したことなどを自由に書いてもらい、それを俳句や詩、絵などで表現すると、オリジナルの句集・詩集・絵本に仕上がります。
- ・ 時間に余裕があれば、参加者それぞれがつくった本や内容を発表する時間を設けることで、感想や成果物を共有し視野の広がり、達成感をもたらします。
- ・ プログラムの前半(レクチャー)を省き、木簡づくりのみのプログラムも可能です。
- ・ 森林教育のほか、書道や国語、図工など幅広い分野で取り入れることができます。

■ 活動の流れ

時間	主な活動	参加者の活動	道具, 材料	留意点 ファシリテータの活動
30 分	全体説明 木と本をめぐる旅レクチャー		プロジェクター, 紹介する本や植物の見本	全体説明の後、木と本のつながりをレクチャーする。 紙や本の歴史や言葉の語源、和綴じなどの見本紹介、木簡について解説する。資料 7-①
15 分 ～ 40 分	制作: 記入	書く内容を考え、下書き用紙に試し書きをする。 その後、木の短冊を並べて文字や絵を記す。	材料① 道具①②	書く内容のふりかえりやまとめを促しながら、下書き用紙へ記入する。 絵や文字などさまざまな完成例を見せるとつくりやすい。 資料 7-②
10 分 ～ 20 分	制作: 綴じ	綴じ紐を使い、短冊ひとつひとつを綴じていく。	材料② 道具③	板書やプリントなどを配布し、綴じ方を図などで示しながら、1ステップずつ一緒にやっていく。 資料 7-③
5 分 ～ 20 分	発表・まとめ	個別に木簡作品を発表する。		どんな本に仕上がったのか、自分の言葉で紹介してもらう。 野外で読書体験もよい。

資料 7-① 植物と本のつながり

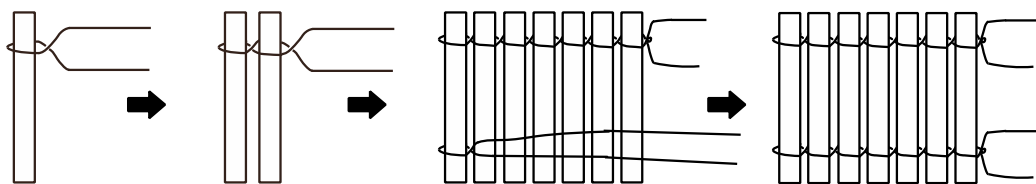


資料 7-② 木簡例 墨絵×木簡



資料 7-③ 木簡のつくりかた (概略)

- ① 板の上段から綴じる。
ヒモのまん中を掛けて交差させる。
2 本目も同様に進める。
- ② 上の段を綴じたら、下の段へ。
同様に下段も綴じる。
- ③ 綴じおえたら端を結ぶ。
完成！



(孝本真由子)